

## 日本国特許庁

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
this Office.

願年月日  
Date of Application:

1996年10月 3日

願番号  
Application Number:

平成 8年特許願第263034号

願人  
Applicant(s):

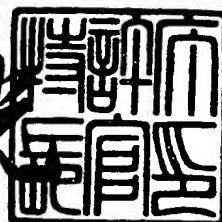
株式会社ニコン

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

1997年 7月25日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

荒井 寿光



【書類名】 特許願  
【整理番号】 96P01800  
【提出日】 平成 8年10月 3日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 H04N 5/76  
【発明の名称】 情報処理装置および情報処理方法  
【請求項の数】 7  
【発明者】  
【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 株式会社ニコン  
内  
【氏名】 木村 啓太  
【発明者】  
【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 株式会社ニコン  
内  
【氏名】 中山 正  
【特許出願人】  
【識別番号】 000004112  
【氏名又は名称】 株式会社ニコン  
【代表者】 小野 茂夫  
【代理人】  
【識別番号】 100082131  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 稲本 義雄  
【電話番号】 03-3369-6479  
【手数料の表示】  
【予納台帳番号】 032089  
【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
【物件名】 明細書 1

特平 8-263034

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9116686

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 情報処理装置および情報処理方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 メイン画像データ、サブ画像データ、または、音声データの内、少なくとも 1 つ以上のデータにより構成される記録単位毎に情報を記録している他の電子機器とシステムを構成するように接続され、前記データを記録単位毎に入力して所定の処理を施す情報処理装置であって、

処理の対象とする記録単位とデータの種類が入力される入力手段と、

前記入力手段により入力された前記記録単位に含まれている前記データを前記他の電子機器から読み出す読み出し手段と

を備えることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】 前記読み出し手段により読み出された前記データを、記録装置に対して出力する出力手段を更に備える

ことを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】 前記他の電子機器は電子カメラであり、メイン画像データ、サブ画像データ、または、音声データの内、少なくとも 1 つ以上のデータにより構成される記録単位毎に情報を記録している

ことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】 前記メイン画像データは、イメージデータである

ことを特徴とする請求項 1 乃至 3 の何れかに記載の情報処理装置。

【請求項 5】 前記サブ画像データは、前記メイン画像に対して補助的な役割を果たす画像データである

ことを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れかに記載の情報処理装置。

【請求項 6】 前記サブ画像データは、線画データである

ことを特徴とする請求項 1 乃至 5 の何れかに記載の情報処理装置。

【請求項 7】 メイン画像データ、サブ画像データ、または、音声データの内、少なくとも 1 つ以上のデータにより構成される記録単位毎に情報を記録している他の電子機器とシステムを構成するように接続され、前記データを記録単位毎に入力して所定の処理を施す情報処理装置の情報処理方法であって、

処理の対象とする記録単位とデータの種類が入力され、  
入力された前記記録単位に含まれている前記データを前記他の電子機器から読み出す  
ことを特徴とする情報処理方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、情報処理装置および情報処理方法に関し、特に、他の電子機器とシステムを構成するように接続され、これらの電子機器から入力されるメイン画像データ、サブ画像データ、または、音声データに対して所定の処理を施す情報処理装置および情報処理方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

例えば、従来の電子カメラにおいては、撮影された被写体の画像をデジタル化した後、所定の方式によりデータ圧縮を施してメモリや記録媒体等に記録するようになされていた。

【0003】

このような電子カメラに記録された画像は、パソコン用コンピュータ等に読み込むことが可能であり、パソコン用コンピュータに具備されている種々の機能を活用して、読み込まれた画像に対して様々な処理を施すことが可能である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

近年、実装技術の進歩等に伴って、被写体の画像（以下、適宜メイン画像という）だけではなく、被写体の画像に重畠されて記録されたメモなどのサブ画像や、音声などの情報も同時に記録可能な電子カメラが実現されつつある。

【0005】

このような電子カメラ等においては、メイン画像（被写体の画像）を主なデータとして、このメイン画像にサブ画像と音声とが付加されて記録単位を構成し、記録単位毎にメモリなどに記録されるようになされている。

【0006】

例えば、電子カメラに記録されている情報をパーソナルコンピュータなどにより読み出し、パーソナルコンピュータに接続されているハードディスク装置などに記録する場合について考える。

【0007】

図11は、電子カメラに記録されている情報をパーソナルコンピュータにより読み出し、ハードディスク装置等に記録する処理の一例を説明するフローチャートである。

【0008】

この処理が実行されると、パーソナルコンピュータは、ステップS1において、特定の記録単位が指定されたか否かを判定する。その結果、特定の記録単位が指定されていない(NO)と判定した場合は、ステップS1に戻り同様の処理を繰り返す。また、特定の記録単位が指定された(YES)と判定した場合にはステップS2に進む。

【0009】

ステップS2において、パーソナルコンピュータは、図12に示す保存ダイアログを表示し、ステップS1において指定された記録単位に含まれているファイル（記録単位に含まれているデータに対応するファイル）のファイル名を表示する。

【0010】

この例では、「保存フォルダ」の下の枠内に表示されている3つのファイル、「Image1.jpg」（メイン画像データのファイル）、「Image1.r1g」（サブ画像データのファイル）、および、「Image1.snd」（音声データのファイル）が表示されている。

【0011】

続くステップS3では、以上のデータをハードディスク装置に記録する際の新しいファイル名が入力される。

【0012】

例えば、図12に示す保存ダイアログの、「ファイルネーム」と表示されてい

る下の枠内に示すような「New Image」が入力される。

【0013】

ステップS4では、保存ダイアログに表示されているファイルを保存するか否かを判定する。即ち、図12に示す保存ダイアログの右側に表示されている「保存」ボタンが押圧されたか否かを判定する。その結果、「保存」ボタンが押圧された（YES）と判定された場合は、ステップS5に進む。また、「キャンセル」ボタンが押圧された（NO）と判定された場合は処理を終了する（エンド）。

【0014】

ステップS5では、指定されたファイルが新しいファイル名でハードディスク装置に保存される。即ち、図12の上部の枠内に表示されている、Image1.jpg, Image1.r1g, Image1.sndの3つのファイルが新たなファイルネームに変更され、それぞれ、NewImage.jpg, NewImage.r1g, NewImage.sndとしてハードディスク装置に記録される。

【0015】

以上のような処理では、電子カメラから記録単位毎に情報がパソコン 컴퓨터に読み出され、ハードディスク装置等に記録されることになる。従って、記録単位に含まれている情報を選択的にパソコン 컴퓨터に読み込んだ後、ハードディスク装置に出力して記録させることができないという課題があった。

【0016】

本発明は、このような状況に鑑みてなされたものであり、メイン画像以外にも複数の情報を記録可能な、例えば、電子カメラ等に記録されている情報のうち、必要な情報だけをパソコン 컴퓨터等により選択的に読み出し、記録装置に記録することを可能とするものである。

【0017】

【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の情報処理装置は、処理の対象とする記録単位とデータの種類が入力される入力手段と、入力手段により入力された記録単位に含まれているデ

ータを他の電子機器から読み出す読み出し手段とを備えることを特徴とする。

【0018】

請求項7に記載の情報処理方法は、処理の対象とする記録単位とデータの種類が入力され、入力された記録単位に含まれているデータを他の電子機器から読み出すことを特徴とする。

【0019】

【発明の実施の形態】

図1は、本発明の情報処理装置の一実施の形態の構成例を示す図である。この図において、パーソナルコンピュータ1は、複数の周辺装置（電子機器）と情報システムを構成するように接続されており、これらの周辺装置からデータを入力するとともに、処理したデータを所望の周辺装置に対して出力するようになされている。

【0020】

CRT (Cathode Ray Tube) ディスプレイ2は、パーソナルコンピュータ1から出力される画像信号を表示出力するようになされている。

【0021】

キーボード3（入力手段）は、パーソナルコンピュータ1に所定の情報を入力する際に操作されるようになされている。プリンタ4は、パーソナルコンピュータ1から出力されるテキストデータや画像データなどを、用紙に印字または印刷するようになされている。

【0022】

電子カメラ5は、被写体の画像であるメイン画像、メイン画像に対して補助的な役割を果たす、例えば、メモなどのサブ画像、および、音声情報をそれぞれ所定の方式により圧縮して記録するようになされている。電子カメラ5に記録されている情報は、入出力ポートを介して、パーソナルコンピュータ1に転送可能とされている。また、逆にパーソナルコンピュータ1から電子カメラ5に対して所定の制御コマンドを送信することにより、電子カメラ5を制御することも可能とされている。

【0023】

ハードディスク装置6は、大容量の外部記憶装置であり、パーソナルコンピュータ1から出力される情報を記録するとともに、記録された情報をパーソナルコンピュータ1からの要求に従って読み出すようになされている。

【0024】

スピーカ7は、例えば、電子カメラ5などから出力された音声データ（デジタルデータ）を入力し、所定の処理を施した後、対応する音声を出力するようになされている。即ち、パーソナルコンピュータ1から供給された音声データは、スピーカ7に内蔵されているD/A変換器によりアナログ信号に変換され、得られたアナログ信号が、同じく内蔵されているアンプにより所定のゲインで増幅された後、音声として出力される。

【0025】

図2は、図1に示すパーソナルコンピュータ1の詳細な構成の一例を示すブロック図である。

【0026】

この図において、図1における場合と同一の部分には、同一の符号が付してあるのでその説明は適宜省略する。

【0027】

図2に示すように、パーソナルコンピュータ1は、CPU (Central Processing Unit) 20 (読み出し手段、出力手段)、ROM (Read Only Memory) 21、RAM (Random Access Memory) 22、VRAM (Video Random Access Memory) 23、および、インターフェース (I/F) 24 (読み出し手段、出力手段) により構成されている。

【0028】

CPU 20は、各種演算を実行するとともに、装置全体の制御を行うようになされている。ROM 21は、例えば、IPL (Initial Program Loader) などのプログラムなどを記憶している。パーソナルコンピュータ1に電源が投入されると、CPU 20はこのIPLを実行し、ハードディスク装置6などからOS (Operating System) などのプログラムをロードするようになされている。

## 【0029】

RAM22は、CPU20が演算等を行う際に、データなどが一時的に格納されるとともに、ハードディスク装置6に格納されているプログラムの一部が逐次読み込まれて記憶されるようになされている。

## 【0030】

VRAM23は、例えば、文字などのテキストデータと、図形や画像などのグラフィックデータが重畠されたビットマップデータが格納されるようになされている。VRAM23に格納されているビットマップデータは、画像信号に変換された後、CRTディスプレイ2に出力される。

## 【0031】

I/F24には、キーボード3、プリンタ4、電子カメラ5、ハードディスク装置6、および、スピーカ7などの周辺装置が接続されており、I/F24は、各周辺装置におけるデータ形式と、パーソナルコンピュータ1におけるデータ形式を相互に変換し、これらの間でデータの授受が可能となるようになされている。

## 【0032】

なお、I/F24には、周辺装置を接続するための複数の入出力ポートが設けられており、1つのポートに対して1つの周辺装置が接続されている。CPU20は、これらの入出力ポートを介して各周辺装置との間で情報の授受を行う。

## 【0033】

図3は、図1に示す電子カメラ5の詳細な構成の一例を示すブロック図である。この図に示すように、電子カメラ5は、CPU40、ROM41、RAM42、VRAM43、LCD44、I/F45、入力部46、マイク47、A/D変換器48、CCD (Charge Coupled Device) 49、光学系駆動部50、および、フラッシュランプ駆動部51により構成されている。

## 【0034】

CPU40は、各種演算を実行するとともに、装置全体の制御を行うようになされている。ROM41には、CPU40が実行する各種プログラムが記憶されている。

【0035】

RAM42は、被写体の画像（メイン画像）、メモなどのデータ（サブ画像）および、音声などのデータを格納するようになされている。また、RAM42は、CPU40が演算等を行う際に、データ等を一時的に格納するようになされている。

【0036】

V RAM43は、例えば、文字などのテキストデータと、図形や画像などのグラフィックデータが重畠されたピットマップデータが格納されるようになされている。V RAM43に格納されているピットマップデータは、画像信号に変換された後、LCD (Liquid Crystal Display) 44に出力される。

【0037】

LCD44は、V RAM43に記憶されているピットマップに対応する画像を表示出力するようになされている。

【0038】

I/F45には、入力部46、A/D変換器48、CCD49、光学系駆動部50、フラッシュランプ駆動部51、および、外部装置であるパーソナルコンピュータ1が接続されている。CPU40は、I/F45を介してこれらの装置を駆動するようになされている。

【0039】

入力部46は、例えば、メモ情報などを入力する際に使用されるタッチタブレットや撮影の際に操作されるリリーズボタンなどにより構成されている。

【0040】

マイク47は、音声を対応する電気信号に変換し、A/D変換器48に供給するようになされている。A/D変換器48は、マイク47から入力される音声信号をデジタル信号に変換し、I/F45に供給するようになされている。

【0041】

CCD49は、図示せぬ光学系を介して入射された被写体からの光像を、対応する電気信号（画像信号）に変換して出力するようになされている。

【0042】

光学系駆動部50は、CPU40により制御され、図示せぬ光学系を構成しているレンズを適宜制御することにより、オートフォーカスやオートズームなどを行うようになされている。

【0043】

フラッシュランプ駆動部51は、同様にCPU40により制御され、図示せぬフラッシュランプを点灯するようになされている。

【0044】

図4は、図3に示すRAM42に記憶される、メイン画像データ、サブ画像データ、および、音声データの格納形式の概要を説明する図である。

【0045】

この図に示すように、所定のメイン画像と同時に録音された音声データ、または、所定のメイン画像に対して書き込まれたメモなどのサブ画像に対しては、同一のインデックス情報（例えば、M0000001など）が付与されており、データ相互の関連付けがなされている。

【0046】

例えば、この図において、左端のメイン画像データ、その下の音声データ、および、更にその下のサブ画像データに対しては、同一のインデックスであるM000001が付与されている。また、その右隣りのメイン画像データとその下の音声データには、インデックスM000002が付与されている。

【0047】

更に右隣りのメイン画像データは、音声データおよびサブ画像データが付隨しておらず、メイン画像だけより構成されている。また、そのインデックスは、M000004とされている。

【0048】

その右隣りのメイン画像データは、音声データのみが付隨しており、それぞれのデータには、インデックスM000005が付与されている。

【0049】

なお、これらのインデックス情報は、メイン画像が撮影された際に、CPU4

0が生成し、各データに対して付与するようになされている。

【0050】

図5は、以上のようなデータが図3に示すRAM42に格納される際の、格納の一態様を示している。

【0051】

図5(A)に示すように、RAM42には、メイン画像データ、サブ画像データ、および音声データが混在する形で格納されている。

【0052】

図5(B)は、メイン画像1のデータ構造を示している。この図に示すように、メイン画像データは、ヘッダ情報と画像データにより構成されている。ヘッダ情報は、前述のインデックス情報、データの種類を示す情報、撮影日時を示す情報、データが格納されている領域のスタートアドレスを示す情報、および、画像データのデータ長を示す情報などにより構成されている。

【0053】

この例では、インデックス情報としてM0000001が付与されており、ファイル名はImage1.jpgであり、データの種類はメイン画像データである。また、撮影日時は、1996年9月18日の6時15分(1996/9/18 6:15)である。更に、画像データが格納されている領域のスタートアドレスは\$0000であり、データ長は\$1500である。

【0054】

なお、\$は、それ以降の数字が16進法で表記されていることを示している。

【0055】

また、サブ画像データおよび音声データのデータ構造も、データの種類が異なる以外は、図5(B)に示す場合と同様の構成とされている。

【0056】

次に、図6に示すフローチャートを参照して、図2および図3に示す実施の形態の動作について説明する。

【0057】

図6に示すフローチャートは、図2に示すパーソナルコンピュータ1において

実行される。この処理が実行されると、ステップS10において、パーソナルコンピュータ1のCPU20は、I/F24を介して電子カメラ5に制御コマンドを送出する。その結果、電子カメラ5のCPU40は、RAM42に格納されているデータの中から、第1番目のメイン画像データを検索し、そのヘッダ情報をI/F45を介して、パーソナルコンピュータ1に送出する。その結果、パーソナルコンピュータ1は、メイン画像のヘッダ情報を取得することになる。

#### 【0058】

ステップS11では、パーソナルコンピュータ1のCPU20は、取得したメイン画像のヘッダ情報をからインデックスを抽出し、ステップS12に進む。

#### 【0059】

ステップS12では、パーソナルコンピュータ1のCPU20は、前述の場合と同様の順序で、制御コマンドをI/F24を介して電子カメラ5に送出する。電子カメラ5のCPU40は、受信した制御コマンドに従って、先に送出したメイン画像と同一のインデックスを有する音声データを検索する。そして、同一のインデックスを有する音声データの有無をパーソナルコンピュータ1に通知する。

#### 【0060】

パーソナルコンピュータ1のCPU20は、電子カメラ5からの信号を受信し、同一のインデックスを有する音声情報が存在するか否かを判定する。その結果、同一のインデックスを有する音声情報が存在する（YES）と判定した場合は、ステップS13に進み、また、存在しない（NO）と判定した場合には、ステップS14に進む。

#### 【0061】

ステップS14では、CPU20は、VRAM23に対して所定のデータを書き込むことにより、音声データを示すアイコンをデフォルトの表示色によりCRTディスプレイ上に表示させる。そして、ステップS15に進む。

#### 【0062】

また、ステップS13では、CPU20は、VRAM23に対して所定のデータを書き込むことにより、音声データを示すアイコンをデフォルトとは異なる表

示色によりCRTディスプレイ上に表示させる。そして、ステップS15に進む。

【0063】

図7は、図6の処理によりCRTディスプレイ2に表示される一覧表の表示例の中間画像の写真を示している。

【0064】

この表示例では、ブラウザウィンドウ95内に、メイン画像が所定の割合で縮小されたサムネイル画像81（後述する）と、メイン画像以外のデータの有無を示すアイコン（ボタン）により構成されているサムネイルエリアが複数（電子カメラ5のRAM22に記録されている数だけ）表示されている。

【0065】

図中に、その一部を拡大して示すように、サムネイルエリア80は、前述したサムネイル画像81、インデックス（M0000025）82、情報ボタン（iが表示されているボタン）83、サウンドボタン（スピーカが表示されているボタン）、および、オーバーレイボタン（OLが表示されているボタン）85により構成されている。

【0066】

ステップS13またはステップS14の処理が実行されると、新たなサムネイルエリア80がブラウザウィンドウ95内に表示されるとともに、サウンドボタン84が表示される。ステップS13の処理では、このサウンドボタン84は、音声情報があることを示すために、デフォルトとは異なる表示色（例えば、緑色）で表示される。また、ステップS14の処理では、音声情報が無いことを示すために、デフォルトの表示色（例えば、黒色）で表示される。

【0067】

なお、サムネイルエリア80のボタンと、ブラウザウィンドウ95の左上のボタンの機能については後述する。

【0068】

図6に戻って、ステップS15では、パーソナルコンピュータ1のCPU20は、電子カメラ5に制御コマンドを送出し、ステップS12の場合と同様に、メ

イン画像データと同一のインデックスを有するサブ画像データが存在するか否かを検索させる。

【0069】

その結果、電子カメラ5からの応答に基づいて、パーソナルコンピュータ1のCPU20が、同一のインデックスを有するサブ画像データが存在する（YES）と判定した場合には、ステップS16に進み、また、サブ画像データが存在しない（NO）と判定した場合には、ステップS17に進む。

【0070】

ステップS16では、サブ画像データが存在することを示すために、図7に示すオーバーレイボタン85が、デフォルトとは異なる表示色（例えば、緑色）で表示される。また、ステップS17では、サブ画像が存在しないことを示すために、オーバーレイボタン85がデフォルトの表示色（例えば、黒色）で表示されることになる。

【0071】

そして、ステップS18に進み、パーソナルコンピュータ1のCPU20は、電子カメラ5にサムネイル画像を送信させるための制御コマンドを送出する。その結果、電子カメラ5のCPU40は、RAM42に格納されているメイン画像データを所定の割合で縮小してサムネイル画像を生成し、I/F45を介してパーソナルコンピュータ1に送出する。パーソナルコンピュータ1は、電子カメラ5から送信されたサムネイル画像データを受信する。

【0072】

ステップS19では、パーソナルコンピュータ1のCPU20は、受信したサムネイル画像データをVRAM23の所定の領域に書き込む。その結果、図7に示すサムネイル画像81がCRTディスプレイ2に表示されることになる。

【0073】

続くステップS20では、パーソナルコンピュータ1のCPU20は、電子カメラ5に対して所定の制御コマンドを出し、メイン画像データがまだ存在するか否かを判定する。即ち、パーソナルコンピュータ1から送信された制御コマンドを受信した電子カメラ5のCPU40は、CRTディスプレイ2にまだ表示さ

れていないメイン画像データをRAM42から検索する。検索の結果はI/F45を介してパーソナルコンピュータ1に送出される。

#### 【0074】

パーソナルコンピュータ1のCPU20は、検索の結果を受信し、メイン画像データがまだ存在しているか否かを判定する。その結果、メイン画像データが存在する(YES)と判定した場合には、ステップS10に戻り前述の場合と同様の処理を繰り返す。また、メイン画像データが存在しない(NO)と判定した場合には処理を終了する(エンド)。

#### 【0075】

以上のような処理により、図7に示すように、同一のインデックスを有するデータが相互に関連づけられて画面上に一覧表として表示されることになる。

#### 【0076】

なお、ここで、図7に示すブラウザウィンドウ95に具備されている各種ボタンの機能について簡単に説明しておく。

#### 【0077】

図中左上に表示されている4つのボタンは、左上から時計回りに、それぞれ、シャッターボタン86、取り込みボタン87、保存ボタン88、および、消去ボタン89である。

#### 【0078】

シャッターボタン86は、電子カメラ5のシャッタを切るためのボタンであり、このボタンが押圧されると、電子カメラ5は、現在合焦している被写体を撮影するようになされている。

#### 【0079】

取り込みボタン87は、電子カメラ5からフルサイズの画像(画素が間引きされている画像)を読み込むようになされている。

#### 【0080】

保存ボタン88は、指定されたメイン画像と、それに付随する、サブ画像、または音声を、図2に示すハードディスク装置6に記録する際に操作されるようになされている。

【0081】

消去ボタン89は、指定されたサムネイルエリア80に表示されているデータを、電子カメラ5のRAM42から消去するようになされている。

【0082】

その下に表示されている (Show Thumbnails) は、その左側に表示されている四角形の中をチェックすると、サムネイル画像81を含むサムネイルエリア80が表示されるようになされている。なお、四角形の中がチェックされていない場合には、ボタン83乃至85とインデックス82のみが表示されることになる。

【0083】

その次に表示されている (Sort by Time) は、その左側に表示されている円の内部をチェックすると、撮影された日時に応じてサムネイルエリア80がソートされて表示されるようになされている。

【0084】

その下に表示されている (Sort by Name) は、その左側に表示されている円の内部をチェックすると、インデックスの大小に応じてサムネイルエリア80がソートされて表示されるようになされている。

【0085】

更にその下に表示されている上向きと下向きの2つの矢印を示すボタン91は、ソートが行われる際に、それぞれ正順または逆順を指定するようになされている。即ち、いま、(Sort by Time) が選択されている (Sort by Time の左側の円の内部がチェックされている) とし、下向きの矢印が押圧されると、記録された日時が古い順に電子カメラ5からデータが読み出され、サムネイルエリア80が左から右、上から下に逐次表示される。また、上向きの矢印が押圧されると、記録された日時が新しい順にサムネイルエリア80が表示されることになる。

【0086】

また、(Sort by Name) が選択されている場合において、下向きの矢印が押圧されると、インデックスの値が小さい順にサムネイルエリア80が左から右、上から下に逐次表示される。また、上向きの矢印が押圧されると、インデックスの値が大きい順にサムネイルエリア80が同様に表示されることになる。

【0087】

次に、図8のフローチャートを参照して、ブラウザウィンドウ95の上部に表示されている保存ボタン88が押圧された場合の処理について説明する。

【0088】

この処理が実行されると、ステップS40において、パーソナルコンピュータ1のCPU20は、CRTディスプレイ2上に表示されている特定のサムネイルエリア80（図7参照）が、例えば、キーボード3等により指定されたか否かを判定する。その結果、特定のサムネイルエリア80が指定されていない（NO）と判定した場合は、ステップS40に戻り同様の処理を繰り返す。また、特定のサムネイルエリア40が指定された（YES）と判定した場合にはステップS41に進む。

【0089】

ステップS41では、CPU20は、VRAM43に所定のデータを書き込み、図9に示す保存ダイアログを表示させる。そして、ステップS42に進む。

【0090】

ステップS42では、CPU20は、ステップS40において指定されたサムネイルエリア80に含まれているデータに対応するファイルのファイル名を電子カメラ5から読み出し、保存ダイアログの枠内に表示する。

【0091】

この表示例では、「保存フォルダ」という表示の下の枠内に、「Image1.jpg」（メイン画像データのファイル）、「Image1.r1g」（サブ画像データのファイル）、および、「Image1.snd」（音声データのファイル）の3つが表示されている。

【0092】

続くステップS43では、CPU20は、指定されたサムネイルエリア80に複数のデータが含まれているか否かを判定する。その結果、指定されたサムネイルエリア80に複数のデータが存在する（YES）と判定した場合にはステップS44に進む。また、複数のデータが存在しない（NO）と判定した場合には、ステップS44およびステップS45の処理をスキップしてステップS46に進

む。

【0093】

ステップS44では、保存ダイアログの下方にデータ種別指定エリアが表示される。

【0094】

この例では、指定されたサムネイルエリア80には、メイン画像データ、サブ画像データ、および、音声データが含まれているので、データ種別指定エリアには、「保存するデータをチェックしてください。」という表示とともに、これら3つのデータの名称が表示されることになる。なお、データ種別指定エリアは、記録単位にメイン画像データだけしか含まれていない場合には表示されない。

【0095】

続くステップS45では、CPU20は、サムネイルエリア80に含まれているデータに対応する四角形（ボックス）内に“×”を表示する。

【0096】

この例では、全てのデータ（メイン画像データ、サブ画像データ、および、音声データ）が含まれているので、データ種別指定エリアの全てのボックス内に“×”が表示される。

【0097】

そして、ステップS46では、新しいファイル名および保存するデータの種別が入力される。即ち、保存ダイアログの「ファイルネーム」という表示の下の枠内に新たなファイルネームを入力する。また、データ種別指定エリアのボックス内がチェックされると、“×”が表示または消去されるので、保存しようとするデータに対応するボックス内には“×”を表示させ、保存が不要なデータに対応するボックス内は空白とすることにより、保存するデータの種別を指定する。

【0098】

続くステップS47では、CPU20は、指定されたデータを保存するか否かを判定する。即ち、図9に示す保存ダイアログ上において、「保存」ボタンが押されたか否かを判定する。その結果、「保存」ボタンが押された（YES）と判定した場合は、ステップS48に進み、また、「キャンセル」ボタンが押さ

れた（NO）と判定された場合には、処理を終了する（エンド）。

【0099】

ステップS48では、CPU20は、ステップS40で指定されたサムネイルエリア80が複数のデータを含んでいるか否かを判定する。その結果、サムネイルエリア80が複数のデータを含んでいる（YES）と判定した場合は、ステップS49に進む。また、複数のデータを含んでいない（メイン画像だけである）（NO）と判定した場合には、ステップS50に進む。

【0100】

ステップS49では、CPU20は、電子カメラ5に対して所定の制御コマンドを送信する。その結果、この制御コマンドを受信した電子カメラ5のCPU40は、図9に示す保存ダイアログのデータ種別指定エリアを参照して、指定されているデータをRAM42から読み込み、I/F45を介して、パーソナルコンピュータ1に送信する。パーソナルコンピュータ1のCPU20は、送信されたデータ（ファイル）を受信し、それぞれのファイルのファイル名を、保存ダイアログにより指定された新たなファイル名に変更し、ハードディスク装置6に出力して記録させる。

【0101】

図9に示す保存ダイアログの例では、Image1.jpg、Image1.r1g、および、Image1.sndの3つのファイルが電子カメラから読み出され、ファイル名がそれぞれ、NewImage.jpg、NewImage.r1g、および、NewImage.sndに変更されてハードディスク装置6に出力されて記録されることになる。

【0102】

また、ステップS48において、指定されたサムネイルエリア80が複数のデータを含んでいない（NO）と判定された場合には、ステップS50に進む。ステップS50では、CPU20は、メイン画像データであるImage1.jpgを、前述の場合と同様の処理により電子カメラ5より読み込み、新たなファイルネームNewImage.jpgに変更し、ハードディスク装置6に出力して記録されることになる。

【0103】

以上のような処理によれば、電子カメラ5に記録単位毎に記録されている情報の中から、所望のデータのみをパーソナルコンピュータ1に読み出し、新たなファイル名を付与した後、ハードディスク装置6等に出力して記録するようになることが可能となる。

【0104】

なお、以上の実施例では、メイン画像データ、サブ画像データ、および、音声データに対してそれぞれ異なるファイル名（拡張子）を付与して、ハードディスク装置6に記録するようにしたが、例えば、これらのデータを1つのファイルにまとめて記録するようにしてもよい。

【0105】

図10は、複数のデータを1つのファイルにまとめて記録する際の、データのフォーマットの一例を示す図である。

【0106】

この例では、ファイルの先頭部分にデータの種類（メイン画像）が格納されており、続いて、メイン画像データが格納されているスタートアドレス（\$A000）と、エンドアドレス（\$AF00）が格納されている。

【0107】

また、その次には、データの種類（サブ画像）と、サブ画像データが格納されているスタートアドレス（\$AF01）と、エンドアドレス（\$B200）が格納されている。

【0108】

更に、その次には、データの種類（音声）と、音声データが格納されているスタートアドレス（\$B201）とエンドアドレス（\$B400）が格納されている。

【0109】

そして、メイン画像データのスタートアドレスとエンドアドレスに示されるように、アドレス\$A000から\$AF00までの領域には、メイン画像データが格納されている。

【0110】

また、サブ画像データのスタートアドレスとエンドアドレスにより示されるように、アドレス\$AFO1から\$B200までの領域には、サブ画像データが格納されている。

【0111】

更に、音声データのスタートアドレスとエンドアドレスにより示されるように、アドレス\$B201から\$B400までの領域には、音声データが格納されている。

【0112】

以上のような実施の形態によれば、複数のデータを1つのファイルにまとめて記録することができるので、例えば、ハードディスク装置6に記録されているファイルを検索する場合等において、検索に必要な時間を短縮することが可能となる。また、ファイル名を記録する領域(FAT:File Allocation Table)を節約することができるとともに、ファイルを記録媒体に記録する際に、ファイル間に挿入されるスペースを削減することができるので、ファイルを記録する際に必要な領域を減少させることも可能となる。

【0113】

【発明の効果】

請求項1に記載の情報処理装置および請求項7に記載の情報処理方法によれば処理の対象とする記録単位とデータの種類が入力され、入力された記録単位に含まれているデータを他の電子機器から読み出すようにしたので、記録単位を構成している所望のデータのみを電子機器から読み出し、例えば、記録装置に出力して記録させることができるので、ファイルのサイズを小さくすることが可能となり、その結果、ファイルを記録する際に必要な記録容量を節約することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の情報処理装置の一実施の形態の構成例を示す図である。

【図2】

図1に示すパーソナルコンピュータ1の詳細な構成例を示すブロック図である。

【図3】

図1に示す電子カメラ5の詳細な構成例を示すブロック図である。

【図4】

図3のRAM42に記憶されているデータの概略を示す図である。

【図5】

図3のRAM42に記憶されているデータの格納の一態様を示す図である。

【図6】

図1に示すパーソナルコンピュータ1において実行される処理の一例を説明するフローチャートである。

【図7】

図6に示す処理の結果表示される一覧表の表示例の中間画像の写真である。

【図8】

図7に示す表示例において、保存ボタンが押圧された場合に実行される処理の一例を説明するフローチャートである。

【図9】

図8に示す処理が実行された際に表示される保存フォルダの表示例である。

【図10】

図8に示す処理が実行された際にハードディスク装置6に記録されるファイルのフォーマットを示す図である。

【図11】

従来におけるデータ保存処理の一例を説明するフローチャートである。

【図12】

図11に示す処理が実行された場合に表示される保存フォルダの表示例である。

【符号の説明】

3 キーボード（入力手段）

特平 8-263034

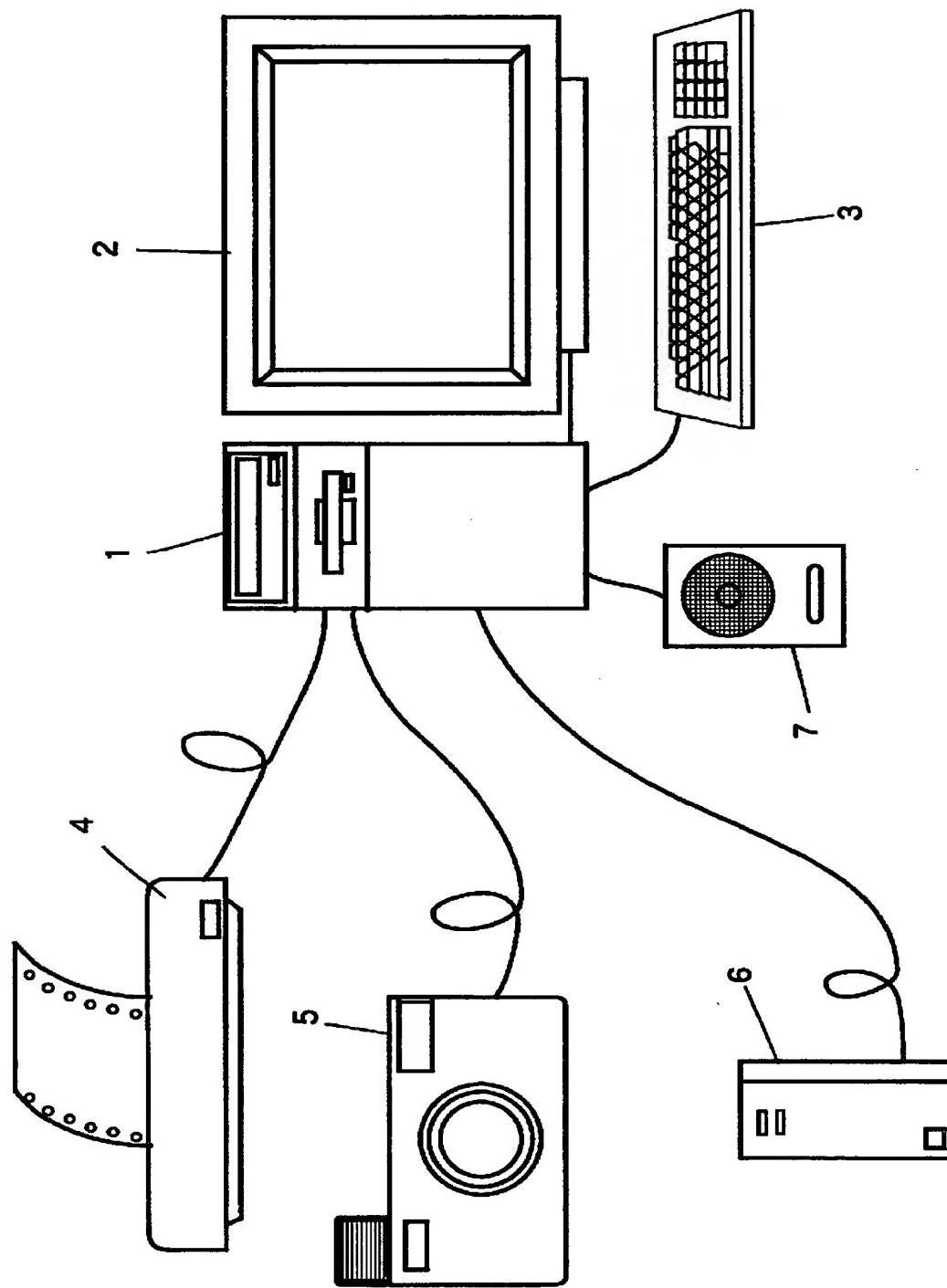
20 CPU (読み出し手段、出力手段)

24 I/F (読み出し手段、出力手段)

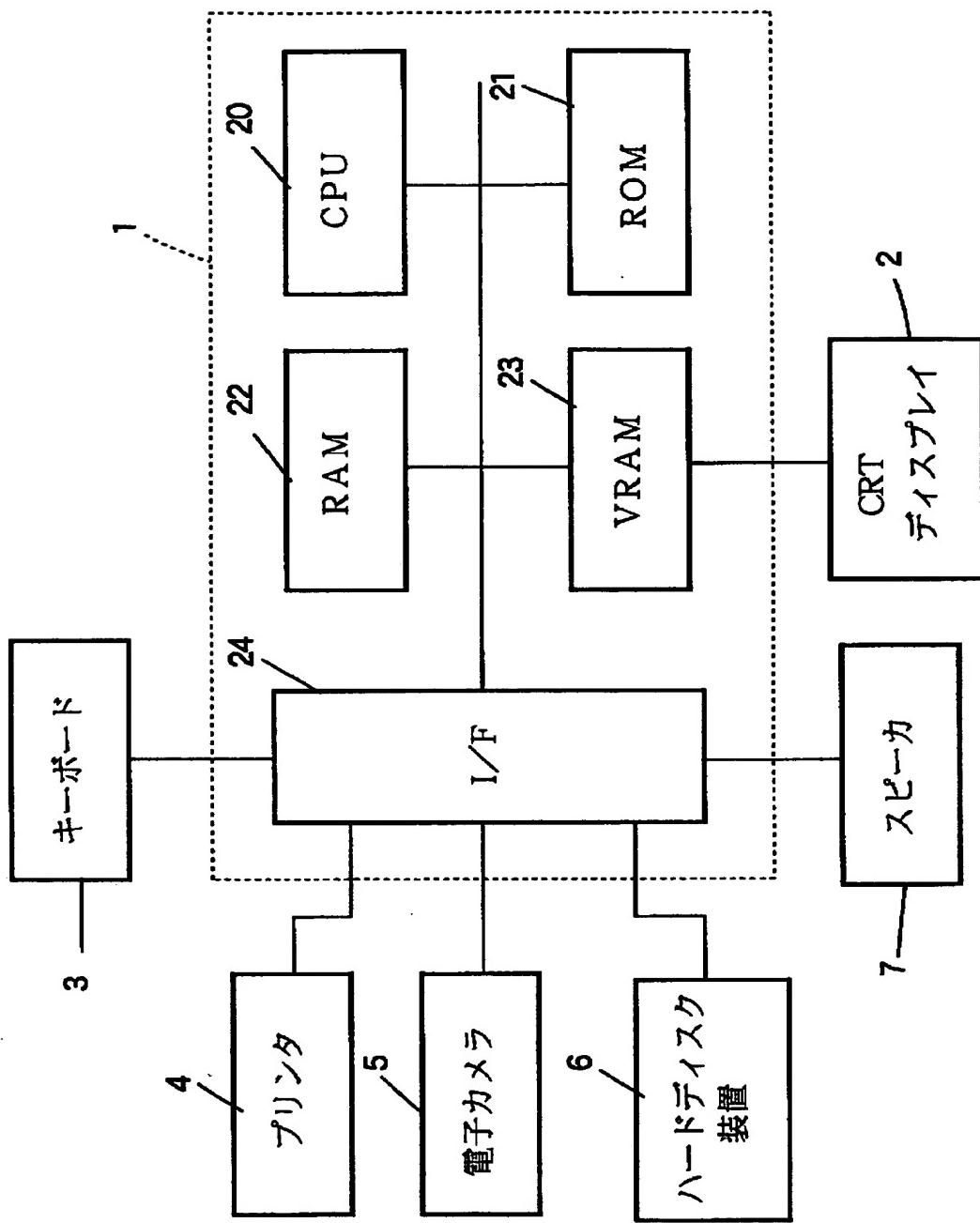
【書類名】

図面

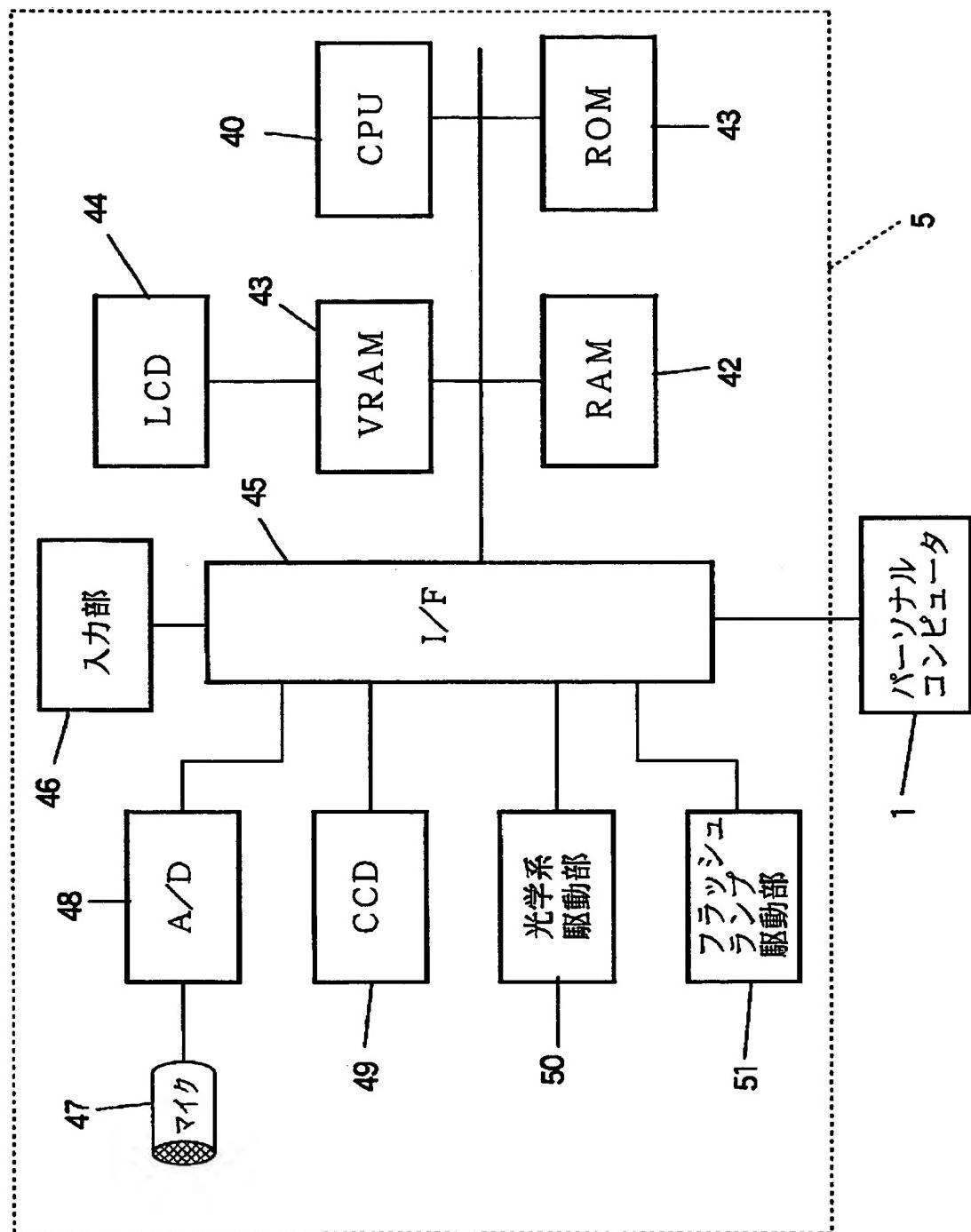
【図1】



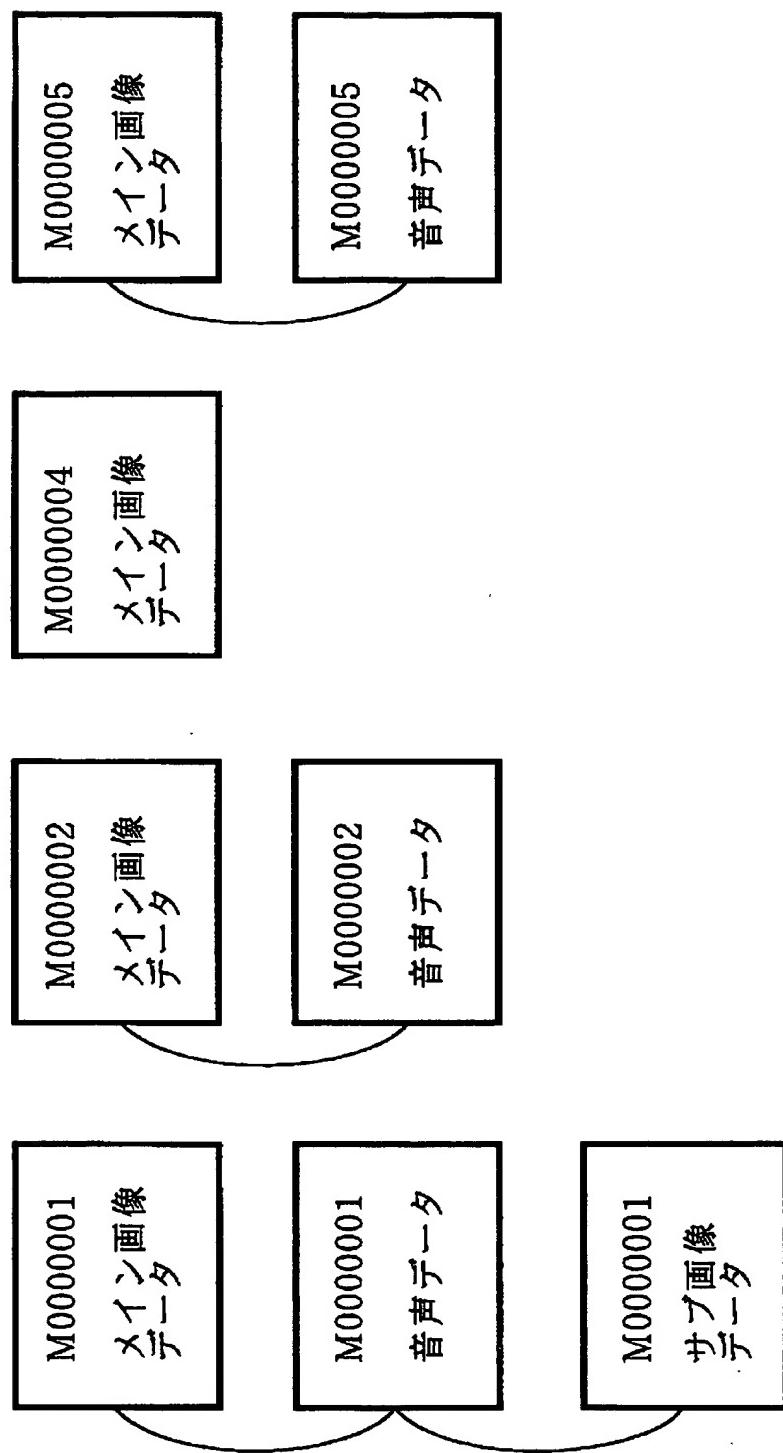
【図2】



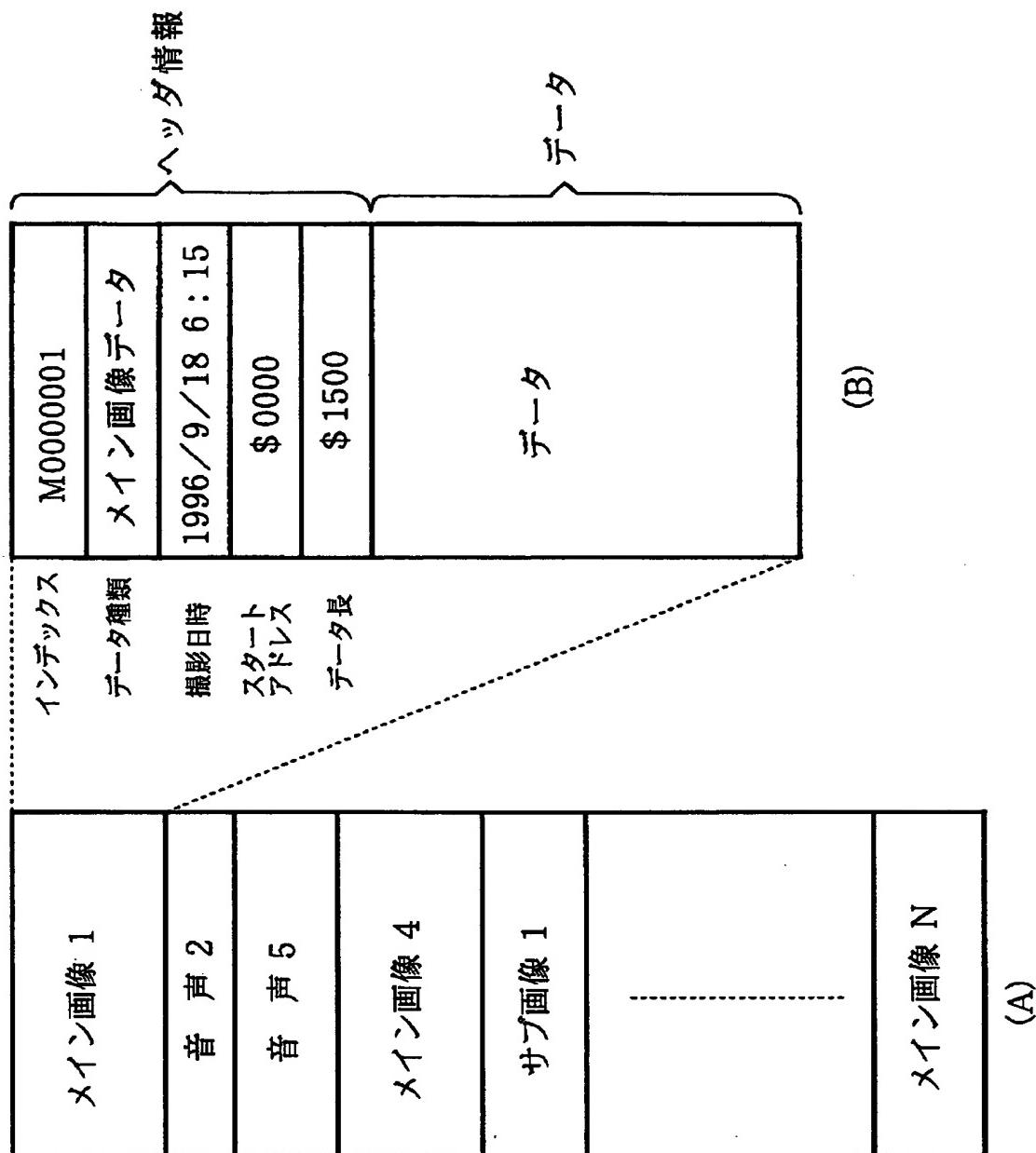
【図3】



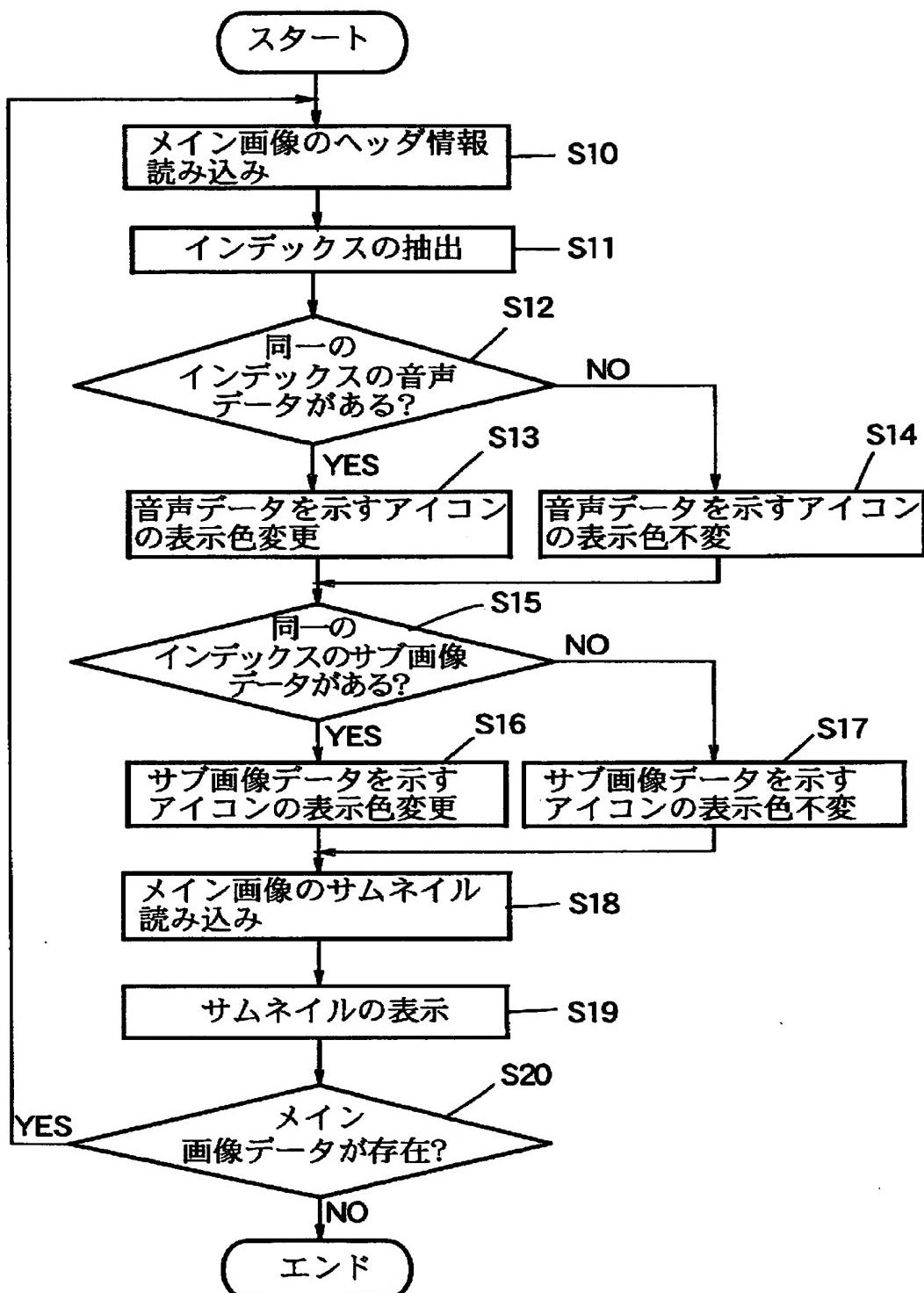
【図4】



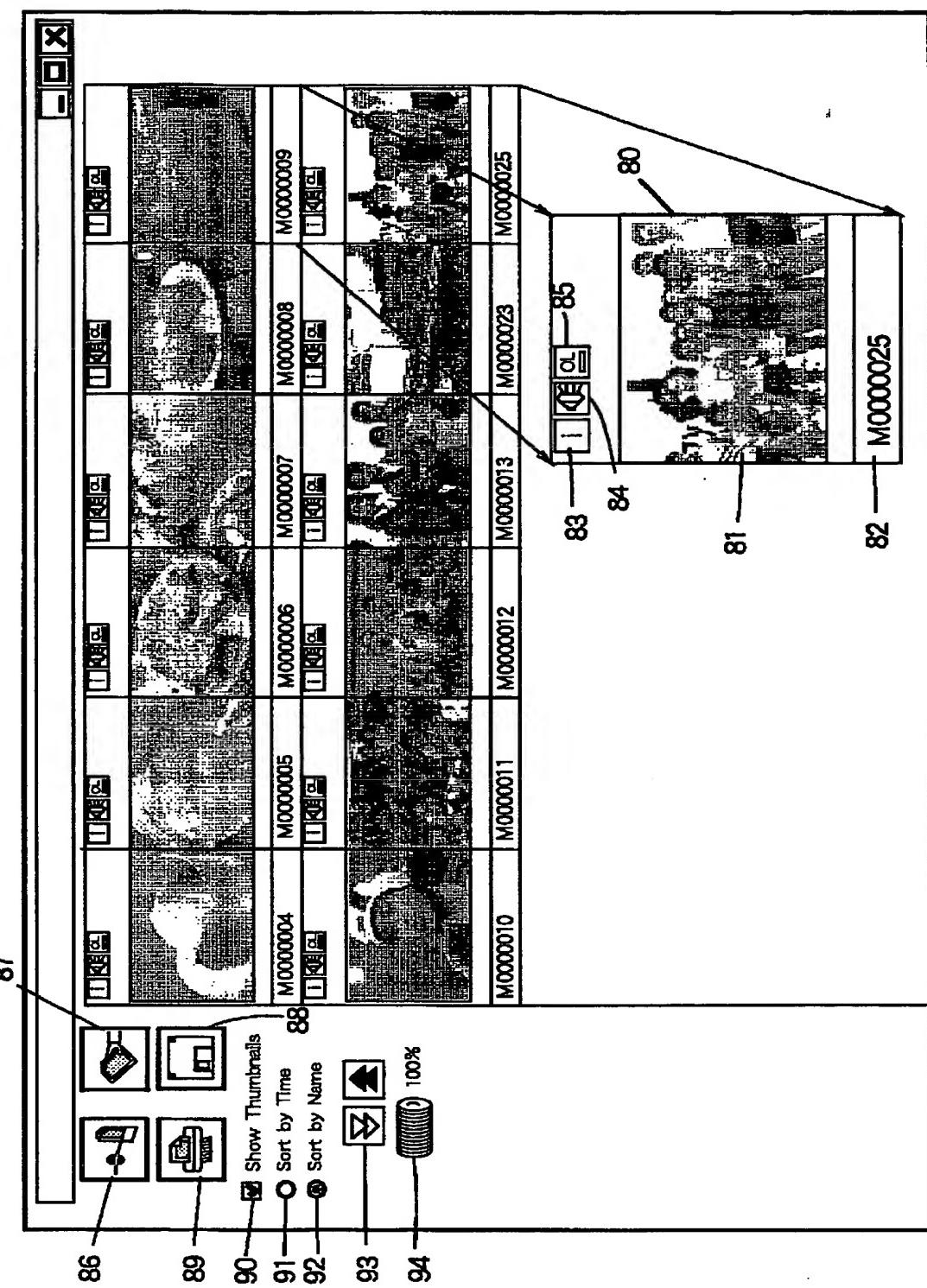
【図5】



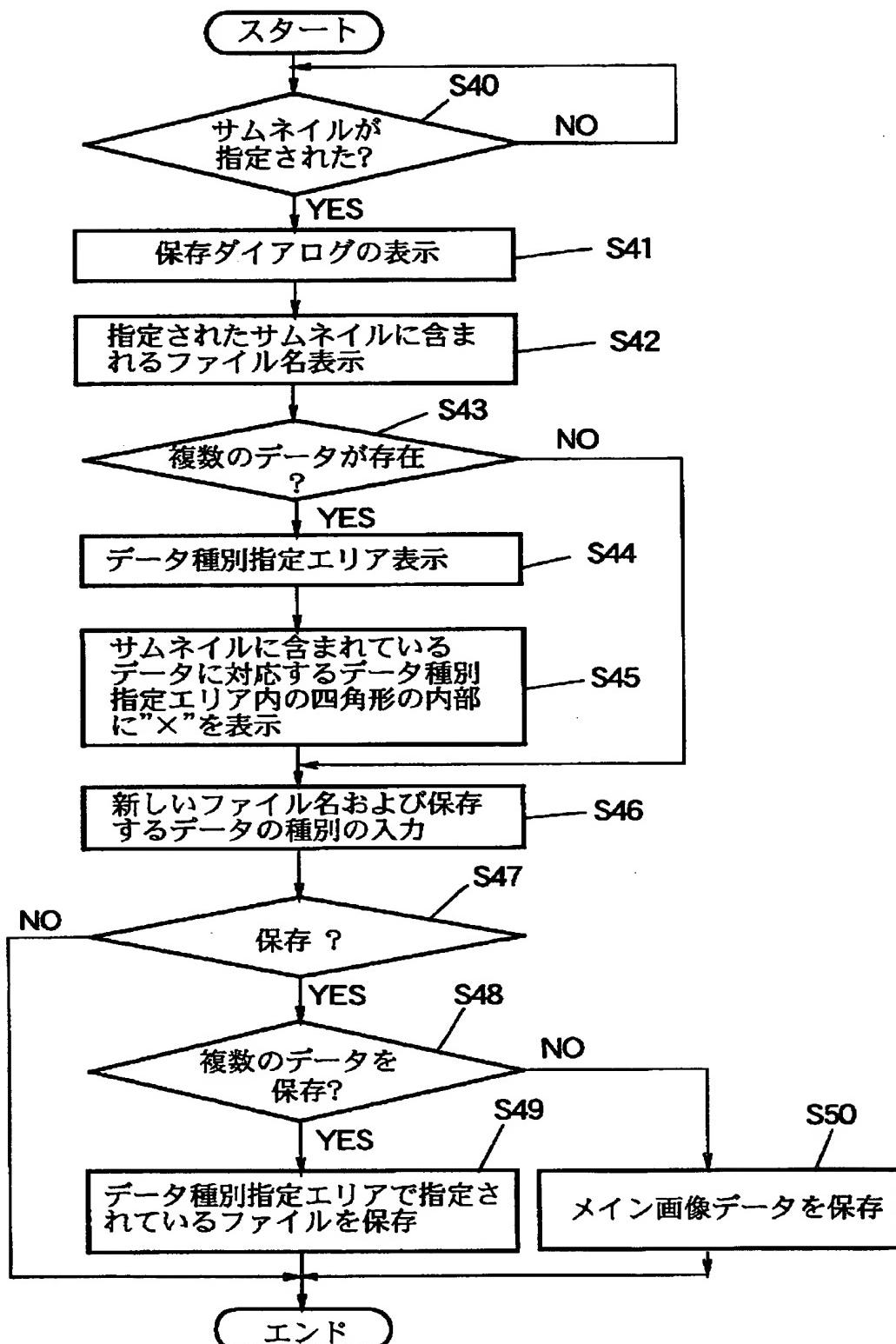
【図6】



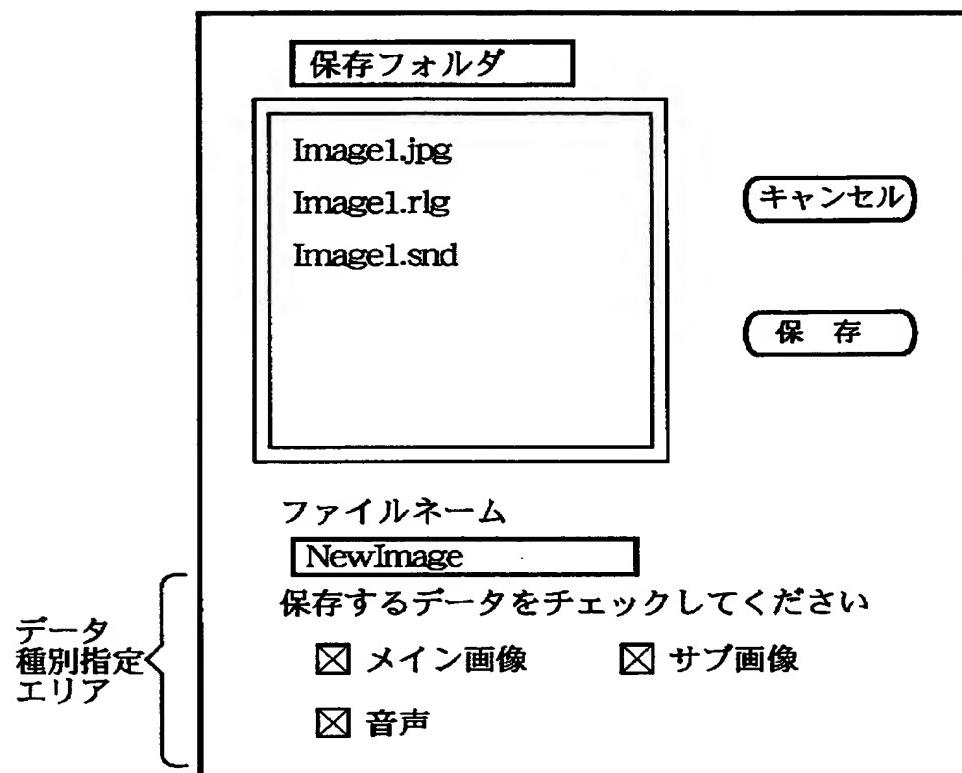
【図7】



【図8】



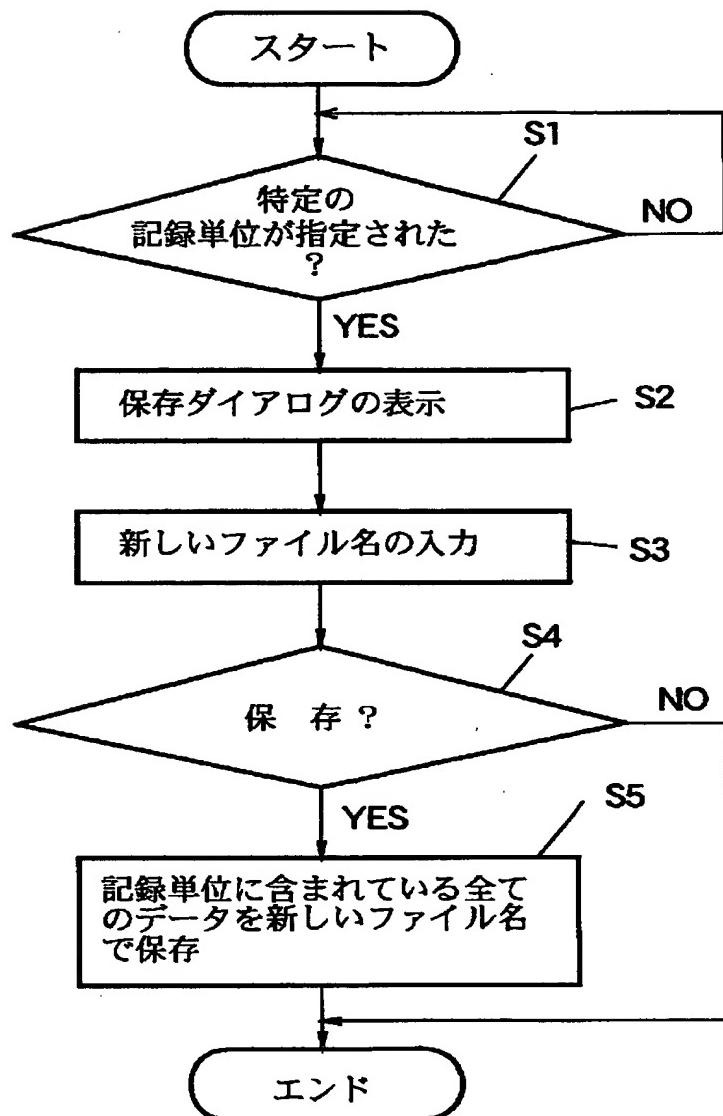
【図9】



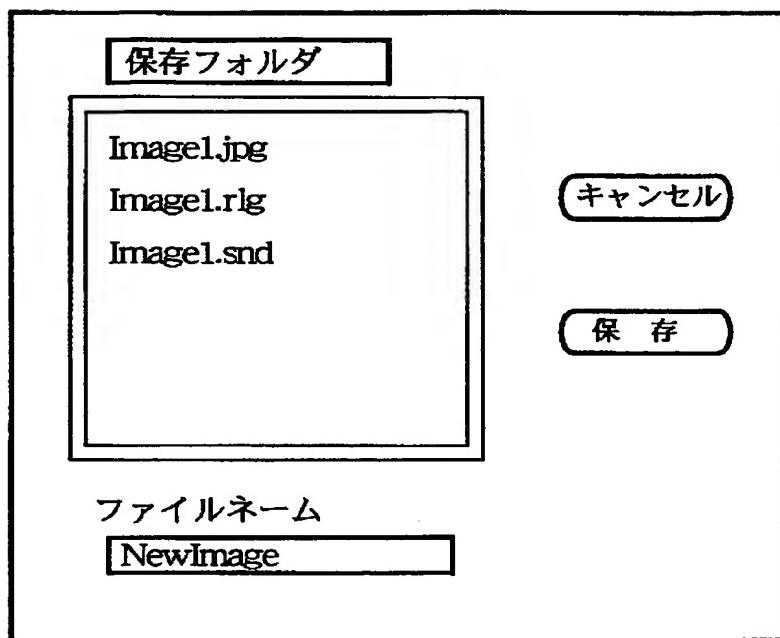
【図10】

データ種類	メイン画像
スタートアドレス	\$A000
エンドアドレス	\$AF00
データ種類	サブ画像
スタートアドレス	\$AF01
エンドアドレス	\$B200
データ種類	音 声
スタートアドレス	\$B201
エンドアドレス \$A000	\$B400
メイン画像データ	
\$AF00 \$AF01	サブ画像データ
\$B200 \$B201	音声データ
\$B400	

【図11】



【図12】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 電子カメラ等に記録されている情報の中から任意の情報をパーソナルコンピュータに読み込み、ハードディスク装置に記録させる。

【解決手段】 電子カメラが接続されているパーソナルコンピュータは、電子カメラに記録されている記録単位を読み出し、記録情報の一覧表を表示する。そして、一覧表の中から外部の記憶装置であるハードディスク装置等に記録しようとする記録単位が指定されると、その記録単位に含まれている情報に応じて、チェックボックスを表示する。そして、ハードディスク等に記録する情報は、チェックボックスの内部に“×”を表示し、その情報が記録の対象となっていることを示す。情報の選択が終了した後、「OK」ボタンが押圧されると、パーソナルコンピュータは、電子カメラに制御コマンドを送信し、指定された情報を読み込み、ハードディスク装置に読み込まれた情報を出力して記録させる。

【選択図】 図9

【書類名】 職権訂正データ  
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000004112

【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内3丁目2番3号

【氏名又は名称】 株式会社ニコン

【代理人】

【識別番号】 100082131

【住所又は居所】 東京都新宿区西新宿7丁目5番8号 GOWA西新宿ビル6F 稲本国際特許事務所

【氏名又は名称】 稲本 義雄

出願人履歴情報

識別番号 [000004112]

1. 変更年月日 1990年 8月29日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都千代田区丸の内3丁目2番3号

氏 名 株式会社ニコン